

生きて活きる音

作

山崎 やまさき

哲史 のりひと

登場人物

天野 勇樹

人見 小春

故人 名前のみ登場

天野 春樹 故人 勇樹の兄

地井 桃 故人 春樹の婚約者

場所

天野家であるマンションの一室

生活音が聞こえる。  
足音、ドアの開け閉め、水音など。  
勇樹、小春に引っ張られつつ帰宅。

小春  
なによってんのよ。勇樹のウチでしようが。  
勇樹  
だから、勘弁してくれって。

外出していく音がする。

小春  
ほとんど帰ってないってどういうつもりよ。ああ、もう、空気がこもってる。  
勇樹  
いいじゃんかよ。  
小春  
あのね、ウチに居座られても困るの。  
勇樹  
男がくるワケでもないだろ。  
小春  
……（蹴る）  
勇樹  
痛っ！  
小春  
ほら、窓、開ける。あー、もし、埃だらけじゃない。  
勇樹  
お前なあ、俺、退院したばっかなんだぞ。  
小春  
退院してから何日経ってんのよ。甘えるな。  
勇樹  
いいじゃんか。おばちゃんも喜んでるし。



小 勇 小 勇 小 勇 小 勇 小 勇 小 勇 小 勇 小 勇 小 勇 小 勇  
春 樹 春 樹 春 樹 春 樹 春 樹 春 樹 春 樹 春 樹 春 樹 春 樹

どうしたのよ。……まだきつい？

……事故の事は、まあ、な。

よく助かったよね。

兄貴が「後ろでもシートベルトつけろ」って言ってくれたからな。

来月の予定だったよね。春樹さんと桃さんの、結婚式。

ああ。

……ね、今日、泊まってあげようか。

マジ？ じゃあ、外行こう外。ホテルにー

調子にのるな。なんでそんなに外に出たがるのよ。

それは。

やつぱり寂しいんだ。

勇樹、周囲を見回し物音を聞き取ろうとする。

いないか。

は？

いや、寝てるか？

ちよつと、勇樹。なに言ってるの？

今に分かる。

勇 小 勇 小 勇  
樹 春 樹 春 樹

小春 勇樹

ねえ、ちょっと大丈夫？  
すぐに分かる。この前もこうだったんだよな。聞こえないから安心してたらー

ドアが開いて人の帰ってきた物音がする。  
部屋のあちこちを動き回ったりする小さな音が早いテンポでし続ける。

小春 え？ 誰か来た？

勇樹 帰ってきた。

小春 ここ、隣や上の物音が聞こえるほど壁薄かったつけ？  
勇樹 違う。

小春 わっ！ ね、ねえ、今、私の横を音が過ぎて行った！  
勇樹 そうだな。

小春 え、なにこれ。なんのイタズラ。  
勇樹 違う。

小春 春樹さんが壁にスピーカーでも仕込んで埋め込んだ？  
勇樹 ちーがーう。

小春 なんだつけ、あの、リアルに音が周囲からするやつ。  
勇樹 違うって言うてるだろ。

小春 じゃあさっきの……なに？

勇 樹  
小 春  
勇 樹  
小 春  
小 春

よく聞いてみる。  
……やだ。まだ音してる。  
この足音、聞き覚えないか？  
知らないわよ、そんなの。

出て行く音。

小 春  
勇 樹  
小 春  
勇 樹  
小 春  
勇 樹  
小 春  
勇 樹  
小 春  
小 春  
勇 樹  
小 春  
勇 樹  
小 春  
小 春

あ、出て行った。  
兄貴だ。  
春樹さん？  
右足を少しひきずって歩く、兄貴の足音だ。  
冗談、だよ？  
親父達が死んだ事故の、あの時からの兄貴の足音だ。聞き間違えたりしない。  
まさか……幽霊？  
だと思う。待て。お前どこに電話する気だ。  
ほら、勇樹の友達に靈感強い子いたでしょ。  
あいつはもう相談した。  
どうにもならなかったの？  
どうにもならなかった。さんざん飯をたかった上で笑って帰っていきやがった。

小春 じゃ、じゃあお寺に電話しよう。もしくは教会。  
勇樹 俺が事故で身内亡くしたからだつて言われるに決まってるだろ。  
小春 えーっ……そっか……。

帰ってくる音。

小春 あ、帰ってきた。ねえ、勇樹。なんか変じゃない？  
勇樹 なにが。

小春 これが春樹さんだとして、歩くの随分早くない？

勇樹 そこかよ！ おかしいだろそれおかしいだろ、なあ？ そこだけじゃなくて全部変だけどき！

お前ホントにバカな。幽霊と一緒に生活してみろお前！

姿は見えた？

いや。音だけ。

じゃあ、怖くないでしょ。

本気で言ってる？

ごめんなさい。

急に色んな物音がするんだぞ。こんな状況で落ち着いていられるか。

耳栓とかさ、

お前ホントにバカな。聞きたくない音だつてー

小 勇 小 勇 小 勇 小 勇 小 春  
春 樹 春 樹 春 樹 春 樹 春

なに？  
なんでもない。  
なによ。気になるじゃない。  
うるせえバカ。  
なに？  
うるさいっての。  
ねえ。春樹さん歩くの早くない？

出て行く音。

小 勇 小 勇 小 勇 小 勇 小 春  
春 樹 春 樹 春 樹 春 樹 春

あ、出てった。どういう事、これ。ねえ。黙ってないでなんか言つてよ。  
あれは、兄貴だ。あの足音は間違いないんだ。  
そ、そうね。面倒臭いから……そう考えよう。で？  
でも、兄貴にしちゃあ歩くのが早い。  
そう。そうだよ。春樹さんはもつとゆつくりの、  
帰ってきてすぐの頃はゆつくりだった。  
どういうこと？  
早くなってるんだよ。だんだん早くなってるんだ。なんでだ？  
私に聞かないでよ。あの早さで生活したら疲れそうだね。



小 春 普通に生活してるんでしょ。  
勇 樹 生活って……幽霊が？  
小 春 幽霊だって生きてるんだからー  
勇 樹 お前ホントバカな。幽霊は、死んでる人なの。  
小 春 それはそうだけどさ。ここで生活してるわけでしょ。  
勇 樹 お前はホント、頭に栄養が足りないな。  
小 春 すみませんねえ。どうせバカですよ。  
勇 樹 ウエストには栄養足りてるのにな。ん？ 生活？  
小 春 (蹴る)  
勇 樹 痛えっ！  
小 春 次言ったら蹴るよ。  
勇 樹 蹴ってから言うな。お前さ、生活って言ったよな。もしかして、兄貴、自分が死んだ事が分かってないとか。  
小 春 なにそれ。  
勇 樹 そんな話あるだろ。死んだ事に気づいてなくて生活を続けてるつもりだつて。  
小 春 あー、あるねー。  
勇 樹 もし兄貴と桃さんがそうだとしたら……。  
小 春 桃さんもいるの？  
勇 樹 桃さんだと思う。





勇 樹

そのあと一度帰ってきたけどな。すぐには音がしなかったから安心してたんだけど、少ししたら兄貴が帰ってきた。桃さん連れてな。で、また飛び出した。

小 春

で、私のトコに来た。

勇 樹

いや。靈感の強いヤツのところに行って相談した。だけど、「確かに物音は聞こえるけど、それ以外なにも問題ない」ってぬかしやがる。しかもめっちゃくちゃ飯をたかつたあげく「しばらく様子見るしかないな」って笑いやがった。

小 春

で、私のトコに来た。

勇 樹

いや、仕方ないからしばらくそいつのトコに泊まって、で、他のヤツのトコ転々としてー

小 春

で、私のトコ？

勇 樹

そういう事。

小 春

随分、後だな……。

勇 樹

ん？ なに？

小 春

なにも言わず退院してたから心配してたって言ってるのよ。

勇 樹

今の短い間にか。

小 春

あのね、誰が洗濯物洗ってあげたと思ってるのよ。

勇 樹

ありがたいございま、す！

小 春

なにが悲しくて勇樹のパンツ洗わなきゃいけないのよ。

勇 樹

どうせ洗ったのおばさんだろ。

小 春

私が洗ったわよ！

勇 樹 あ、そう。ありがとう。  
小 春 もうちよつと感謝の言葉はないのか。

勇 樹 ありがとう。

小 春 感謝の気持ちは物でしめしたまえ。最近人気のお店がさあ、

勇 樹 少し気が紛れたわ。兄貴の音のおかげで随分落ち着かなかったからさ。ありがとうな。

小 春 ……そっちかよ。

勇 樹 それにしても不思議でな。ここにいる間だけ兄貴達の物音が聞こえるんだ。

小 春 勇樹がいない間も音がしてるんじゃないの？

勇 樹 いや。友達で試してみただけなんともなかつたつてさ。

小 春 でも勇樹がいるとするんだ。春樹さん、帰ってきてないだけじゃないの？

勇 樹 その可能性もあるか。でもなあ。

帰ってくる音。

勇 樹 これだよ。さすがになあ、

もう一人帰ってくる音と、赤ちゃんの泣き声。

二人 赤ちゃん？

小勇  
春樹 春樹

えええっ！ できたの？

あー、えー、お、おめでとうございます。

ありがとうございます、つて違う。なんで幽霊に子供ができるんだよ！

昔から死んだ人が子供を産む、つて話はあるわよ。

嘘お。

落語とかのネタにもなってるわよ。あつてもおかしくないんじゃない？

なんでこの状況を受け入れてんだよ。

だつて春樹さんと桃さんなんですよ。仕方ないじゃない身内なんだから。

俺の身内であつてお前の身内じゃないだろ。

身内同然。

そりやお前は嬉しいだろうよ。

勇樹は嬉しくないの？

好きだつた相手がいてくれりゃ嬉しいに決まってるよなあ。

なにそれ。

お前、兄貴のこと好きだつたんだろ。

え、ちよつと待つて。なんでそんな話になるの？

隠してたつもりかよ。

ちよつと！

赤ちゃんの大きな鳴き声。

勇 樹 うわあつ！

小 春 あー。ごめんごめん。はい、大声出すなんて悪い叔父さんですねー。

勇 樹 叔父さんって言うな。

小 春 しーっ。勇樹、声が大きい。

勇 樹 幽霊にこつちの声が聞こえるかよ。

小 春 そんなこと言っても泣いてるんだから仕方ないでしょ。

勇 樹 我慢できねえ。

小 春 こら、勇樹。甥っ子ほったらかしてどこ行くの。

勇 樹 ちよつと待て。なんで甥っ子って分かるんだよ。

小 春 こんなに元氣よく泣いてるんだから男の子に決まってるでしょ。この辺かなー？ よいしょ、と。

勇 樹 触れんのか！

小 春 つもりよつもり。はい、よしよしよし。勇樹叔父ちゃんは怖いですねー。

勇 樹 勝手に男に決めつけるなよ。女の子かもしれないだろ。

小 春 勇樹、女の子がいいんだ。

勇 樹 そうじゃなくてな、人の身内を勝手に決めるなって言ってるの。

小 春 勇樹叔父ちゃんがなにか言ってまちゆねー、桃春クン。

勇 樹 名前つけんな！ なんだよその名前は。





小 勇 小 勇 小 勇 小 勇 小 勇  
春 樹 春 樹 春 樹 春 樹 春 樹

そうだね。  
……兄貴の一生が終わってないって事、かな。  
……そうだね。  
そっか……。  
春樹さん、ちゃんというね。  
うん……。ん？  
あれ？

赤ちゃんの泣き声。

勇 小 勇 小 勇 小 勇 小 勇 小 勇  
樹 春 樹 春 樹 春 樹 春 樹 春 樹

二人目？  
今度はどっちかな。  
鳴き声可愛いから女の子だろ。  
名前は？  
……小夏。  
誰の名前？ あ、分かった。グラビアかなんかの人だ。  
違う。なんかいいかなー、と思つてさ。  
ふーん。  
お前はどなんだよ。



小春 そうじゃなくてさ。  
勇樹 馬鹿。いくらなんでも、兄貴が好きになった人に行くかよ。  
小春 桃さんが「勇樹クンに恋愛相談されたんだー」って言ってたけど。  
勇樹 なに話してんだよまったくもー。  
小春 それ桃さん本人の事なんじゃないの？  
勇樹 違うよ。……なんだよ、その目は。  
小春 ふーんと思っ……。

ガラスの割れる音。

小春 え、なに？  
勇樹 ガラスが割れた音、だよな。……音だけだ。本当に割れたわけじゃないな。

家具の倒れる音。

小春 きゃっ！  
勇樹 これ……まさか……。  
小春 反抗期？  
勇樹 悦郎がグレたか？

小春 今時こんな事する？

勇樹 でも夫婦喧嘩は考え辛いだろあの二人じゃ。

小春 じゃあこれ誠也クン？

勇樹 あ、止まった。

小春 何があつたんだらうね。

勇樹 音だけじゃあなあ。せめて声が聞こえれば。

小春 音だけ聞こえてくるつて変な感じだよ。想像も中途半端にしかできないし。

勇樹 それだけ視覚の比重がデカいって事だろ。あ、出てったかな。分かんねー。気になるな。なに

があつたんだらう。

小春 誠也クンがグレたとして、叔父さんとしては何か相談にのつてあげるんですか？

勇樹 さあなあ。どう話していいか俺も兄貴も分かんないよ。俺達、ガキの頃に親父もおふくろも死ん

でるから、親つてのがどう接するものか分からないからなあ。

小春 ……そつか。

勇樹 ま、いいんじゃない？ 兄貴と話した事あるんだけど、「親になつていけばいいんだよな」つてと

こに結論は落ち着いた。最初つから親である必要はないんだよな。子供と一緒に成長していけば

いいんだつて。

小春 へえ……なんでそんな話を？

勇樹 兄貴が、桃さんと「結婚考えてるんだ」つて切り出してきた時。二人で明け方まで飲んだな。

小春 ……小春、なんか飲むか？

小春 ……もらおうかな。

勇樹、台所へ行く。

小春 ちよつと静かになったね。誠也クン、大学か就職かしたのかな？

勇樹、ビールを手に戻ってくる。

勇樹 女の子だけだと静かなもんなのかね。

小春 話し声が聞こえたら凄くうるさいと思うよ。特に友達が遊びにきたりしたら。それは男だつて同じさ。

小春 なんだか、物音が小さくなるとちよつと穏やかな感じがするね。そうだな。

小春 もしかしたら、小夏ちゃんももうおうち出てるのかもしれないね。……なんで女の子の名前は、俺の方でいいのよ。

小春 え？ いい名前だから。それにやっぱりさ、女としては、息子の方が大事な感じなのかなー。女？ どっちかつて言うとお前はまだクソガキの範疇だろ。

小春 ……そう見てるのは勇樹だけだよ。そうかね。あ、物音、少しゆつくりになってきたな。

小春 勇樹 小春 勇樹

ほんとだ。

……桃さんと二人で仲良くやってるのかな。

春樹さんと桃さんだと、いい歳の取り方してそうだよな。

そうだな。家族、かあ。

勇樹、泣きそうになるのをこらえる。

小春 勇樹

(優しく) ……どうしたの勇樹？

いや。兄貴、家族が持ててよかったなつて。俺達にとつてさ、家族っていえばお互いの事だったから。兄貴も俺も、家族ってやつに憧れてた。

よかったね。春樹さん。

うん。……あのさ。

うん？

この前、事故った場所つてさ。

……うん。近いよね。

いいよ。気い遣わなくて。同じなんだよな、場所。

……うん。

親父達が死んだ、あの場所なんだよな。

……うん。

小春 勇樹 小春 勇樹 小春 勇樹 小春 勇樹

勇 樹 あの時も、今回も、俺は助かった。親父とおふくろと、兄貴と桃さんと……俺の代わりになった  
としか……思えないんだよな……。

勇樹、嗚咽を漏らす。

小春、勇樹に寄り添う。

小 春 分かんないよね、それは。でも、そうだとしたら勇樹は自分を大事にして、幸せにならないとダ  
メだよ。

勇 樹 「何かに取り憑かれてるのかな」と思う時もあったよ。

小 春 うん。そんな時もあったね。

勇 樹 だから、靈感の強いヤツによく酒つきあってもらってたよ……。

小 春 なんともない、って言われてたよね、よく。

勇 樹 ああ……やっぱり……憧れるんだよね。家族で暮らすってどんな感じかなって。俺よりも兄貴の  
方が凄く気に入ってた。弟の俺は、家族の思い出が少ないから可哀相だ、って凄く気に入ってた。い  
つも俺の事、気にしてた。

小 春 本当に仲良かったよね。春樹さんは勇樹の事、とつても大事にしてた。

勇 樹 俺がようやく仕事やっていけそうな目星がいたら、やつと彼女に本腰入れて。兄貴はやつと兄  
貴自身の為の家族を手に入れられるんだな、って思った。桃さんもいい人だし、やつと兄貴、俺  
みたいなお荷物から解放されて幸せになってくれ……思ってた……嬉しくて……。

小春、勇樹によりかかる。

小春 春樹さん、今、幸せじゃないかな。結婚して、子供が二人もできて。

勇樹 生きてる内じゃなきゃ意味がねえだろ！

小春 生きてるよ。春樹さん、生きてる。だって、ほら、普通に生活してるもの。目を閉じてき、耳を澄ませて、想像してみようよ。春樹さん今いくつかな今どんな顔かな。

勇樹 ……あのまま、皺と白髪が増えてるだろ。

小春 目尻がちよつとさがって。

勇樹 頬、少しこけてる。

小春 優しい顔のまんまだよね。

勇樹 桃さんもそうだろ。やっぱり、いつもニコニコしてて。

小春 丸顔で、かわいい感じ。

勇樹 子供、どんな顔だろうな。

小春 なんか子供の顔ってあんまり想像できないね。

勇樹 そうだなあ。

小春 静かだねー。

勇樹 ああ。

小春 子供が手を離れると、やっぱり時間もゆっくりになるんだらうねー。

勇樹 かもしれない……あれ？

賑やかな帰ってくる音。

赤ちゃんの鳴き声も聞こえる。

勇樹と小春、顔を見合わせる。

……孫！

孫、か？

え、どつちだろう。どつちの子かな。

分かるかよ、そんなの。うわあ。生々しいなあ、兄貴達。幽霊なのにそんなんでいいのかよ。

赤ちゃん抱っこして、目尻垂れ下がってるだろうねー。知ってる？ 孫ができるともつとダメダメになるらしいよ？

可愛がるだけでいいらしいからなあ。

……また音が早くなったね。

ああ。早くなった。

賑やかに出て行く音。

小春 あ、帰った。

勇 樹 あつという間だな。……寂しいだろうな。  
小 春 だろうね。  
勇 樹 でも孫に会えて嬉しいだろうな。  
小 春 うん。そうだね。  
勇 樹 孫か……って事は？ 兄貴いま幾つだ？  
小 春 んー？ いってても定年くらいじゃない？  
勇 樹 定年かあ……。これからは二人でのんびり暮らす頃合いなのかな。  
小 春 なんだか、物音がゆっくりな気がしてくるね。  
勇 樹 兄貴、ゆつたりしてるからな。あれかな。やつぱりせつかちだつたらまだまだ騒がしいのかな。  
小 春 きつとそうだね。

帰ってくる音。

勇 樹 お、また来た。  
小 春 赤ちゃんの声は聞こえないね。  
勇 樹 どっちがどう帰ってきたのか、分らないな。  
小 春 気になるね。  
勇 樹 順番で考えるなら今度は小夏の方だろ。あ、なんかバタバタしてる。

慌ただしく出て行く音。

小春 ……出産前に帰ってきて生まれそうになった、とか？

勇樹 兄貴達、いい思い出になるだろうな。

小春 賑やかでいいね。

勇樹 家族が増えるって、楽しいんだろうな。

小春 楽しいよ。

勇樹 お前のトコ、誰も増えてないだろ。

小春 増えたよ。春樹さんと勇樹。おじさんとお婆さんが亡くなってから、ウチでよくご飯食べて一緒に遊んだよね。勇樹達は夜必ずこのおウチに帰って行ったけど、ほとんど家族同然に暮らしてた。

勇樹 ……ああ。お前のおじさんお婆さんには凄くお世話になった。あれがなかったら親戚もろくにいない俺達は施設行きだったろうな。

小春 私、嬉しかったんだ。家族が増えてさ。お兄ちゃんができて勉強教えてもらったりして凄く楽しかった。

勇樹 俺、お兄ちゃんか？

小春 勇樹は出来の悪い弟。

小春 失敬な。お前より出来はいいぞ。成績も俺の方が上だったしな。

勇樹 イタズラ好きでしょうもない事ばかりしてたの誰？ ま、今も変わらないけど。言つとくけど、これ、イタズラじゃないからな。

静かに帰ってくる音。

あ、帰ってきた。

なんかゆっくり目だね。

ああ。

なんだか、また優しい感じになったよね。

もう孫の事しか考えてないんだろうな。

初宮参りに行くの楽しみだろーうね。

……写真で見た事あるんだけどさ。

うん。

俺も兄貴も、じいちゃんばあちゃんが初宮参りに連れてってくれてるのな。

あれ？ そうなの？

ああ。俺が物心つく前に死んじゃったけど、なんとか孫の顔は見られたってわけだ。

そっか。春樹さんも、それ思い出してるかもね。

今まさにそこでアルバム開いてるかもな。

いいね。家族の思い出出って。

……兄貴、生きてるんだなあ。

……桃さんもね。

小勇  
春樹 春樹



小 勇  
春 樹

にも、いっぱい愛情もらってるでしょうに。

うん。だからさ、なんかそうだと認めたくないんだよな。

わつがままだね。いつもは明るいくせに、勇樹、そういうところあるよね。みんなあまり知らないけど。

そうだな。

……なに黙ってるのよ。

なあ。

なあに。

結婚しないか？

短い間。

小 勇 小 勇 小 勇 小  
春 樹 春 樹 春 樹 春

はあ？

いや、いい、ごめん。忘れてくれ。

なに馬鹿言ってるの！

だから忘れてくれればいい。

忘れるわけないでしょうが！

……はい？

「雰囲気で言った」とか言わせないからね。

勇 樹 あ、はい。

小 春 さすがに、「つきあおう」つてのをスツ飛ばしてそうくるとは思わなかったけどね。

勇 樹 なんだろう。この敗北感は。

小 春 さつさと決断しなかった自分を恨みなさい。だいたいね、ずっと私を放っておいた勇樹が悪いんだからね。

勇 樹 (土下座して) ごめんなさい。

小 春 ……いいよ、そんなにしなくても。

勇 樹 手近で手軽だからやめとこうとか思ってたてごめんなさい。

小春、勇樹の頭を叩く。

勇 樹 痛えっ！

小 春 反省しろ。

勇 樹 はい。……そう言えば「手近でなきや知り合う事もできないんだぞ」つて言ってた人がいたな。

小 春 あんた、反省する気ないでしょ。

勇 樹 ごめんごめん。冗談だよ。

小 春 笑えないのよ。もう一発いつとくか。

勇 樹 お前、目が怖いぞ。……あれ？

小 春 なにごまかそうとしてんのよ。

小 勇 小 勇 小 勇  
春 樹 春 樹 春 樹

そうじゃねえよ。聞いてみる。  
え？

……静かだ。

……ホントだ。

兄貴？

桃さん？

二人、部屋の中をウロウロしてあちこちに声をかける。

……兄貴ー？

桃さーん。

兄貴……くそつ。こっちからの声、やっぱり聞こえないのかな。

きつと、お子さんの所に行つたんだよ。

……ここを出て行つたのかもしれないな。

そうだね。お孫さんと一緒に暮らしてるかもね。

馬鹿！

馬鹿つてなによ。

ここしかないんだよ。兄貴の家はここだけなんだよ！

そんなこと言つたつて……。

小勇  
春樹 春樹

兄貴？ 兄貴？ まさか……死んじまったのか？  
勇樹。

兄貴……二度も死ぬ事……ないだろ。

歳をとって子供達に面倒見てもらってるんだよ。

あれだけ時間が早く過ぎたんだぞ……いま、兄貴いくつだよ……。

ゆっくりになっていったじゃない。きつと私達と同じくらいに感じてるよ。

……そうかな。

そうだよ。

……このウチ、一人で住むに広過ぎるんだよな。

まあ……そうだよな。

一緒に住まないか？ ……本気だからな。

分かってる。私だって、ここに来たかったんだからね。

ありがとう。

どういたしまして。さて、それじゃあさっそく荷造りしてこようかな。

早いな。

ここに一人でいるの寂しいでしょ？ 一緒にいてあげる。

おばちゃん何か言わないか？

どっちかって言うよ、「連れてこい」って言いそうだけどね。勇樹。『おばちゃん』じゃなくて

『お義母さん』って言えるようになってないダメだよ。

勇樹 頑張ります。  
小春 よし！ じゃあー  
勇樹 あ、待った。  
小春 なに？  
勇樹 これくらい、な。

勇樹、キスしようとする。

小春、一瞬驚きこれまでのクセで蹴り飛ばしそうになるが、なんとか止まってキスを受けようとする。

二人がまさにキスをしようという瞬間、騒がしい一団が入ってくる音がする。

勇樹 わっ！  
小春 なになになに？

あちこちを走り回る子供のはしゃぐ声、大きい物が運び込まれる音、幾つかのバタバタとした足音。

勇樹 いいところで！  
小春 なに、これ？

勇 樹 家族だよな、これ。

小 春 ……誠也クン？

勇 樹 小夏かもな。

小 春 ……勇樹。その名前、私の『小』と『春の次は夏』って意味？

勇 樹 うん、まあ。

小 春 センスないね。

勇 樹 ああ、まあ……。

小 春 もしかして、誠也クンと小夏ちゃん両方の家族だったりして。

勇 樹 まさかあ！ 二家族住めるほど広くないぞ、ここ。

小 春 私達が住んだら三家族だねえ。

他の音が一旦止まり、ゆっくりとした足音が二つ、聞こえてくる

勇 樹 ……兄貴？

小 春 桃さん？

大勢のたてる音が始まり、その足音は紛れて分からなくなる

勇 樹

どこの大家族だよ今時。

小春 賑やかで楽しい、かな？ 同じくらいの時間みたいだし、まあなんとかなるんじゃない？  
勇樹 ……俺は嫌だぞ？

音がピタリと止まる。

勇樹 聞こえてるのかよ。  
小春 かわいそうだよ、勇樹。  
勇樹 そうは言ってもなあ……。  
小春 お婿さんに来る？  
勇樹 そういう問題じゃないだろ。  
小春 他に部屋探す？  
勇樹 兄貴達のいた跡がなくなる。  
小春 じゃあ、どうするの？  
勇樹 ……ああもう分かった！ 大家族上等！ つきあえばいいんだろ！

歓声。

勇樹 こらーっ！ もういや、こんなの。  
小春 音にも慣れるよ。だつてさ……。

小春

生きる音がして、はじめて人生が始まるんだよ？

湧き起こる拍手。

勇樹、顔をおさえて途方に暮れる。

小春、周囲に丁寧に頭をさげる。

大きくなる拍手。

勇樹、困り果てた顔を周囲に向ける。

小春、周囲にありがとうーという感じで両手を振る。

拍手の中、ゆっくりと暗くなっていきー幕